

すぎのこ

172

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2023 10/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 映画研修センター：〒350-1315 埼玉県狭山市北入管695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
 演劇研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡嬬恋村千度 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 巡回公演だより／園からの声／いいだ人形劇フェスタ報告
 4面 日・中・韓の意見交換会／講習会報告 演育ワークショップ／制作だより／事務局だより／活動記録 ほか

<http://www.suginoko.org/>

E-mail: support@suginoko.org



日・中・韓 意見交換会に於いて

予測不能な時代の生き方と組織としてのあり方

理事長 大場 隆志

前回の季刊紙で、人生には良いことも悪いことも予測できないことが多いことから、起きた出来事

に一喜一憂せず、動じず、誰にも負けない努力をする大切さを、改めて知ることができると書きまし

た。

それでは、予測不能な時代に、変化を機会に変え、新しい価値を創造していくには、どうしたらよいのかを考えていきます。

「われわれは未来について二つのことしか知らない。一つは、未来は知りえない。もう一つは、未来は今日存在するものとも、今日予測するものとも違うということである」とピーター・ドラッカーは言っています。

一つは、自分で創ることである。成功してきた人、成功してきた企業は、すべて自らの未来を、みずから創ってきた。ドラッカー自身、マネジメントなるものが生まれることを予測する必要はなかった。自分で生み出したと言っています。もう一つは、すでに起こったことの帰結を見ることである。そして行動に結びつけることである。これを彼は、「すでに起こった未来」と名付けています。あらゆる出来事が、その発生と、インパクトの顕在化とのあいだにタイムラグを持つということです。

出生率の動きを見れば、少子高齢化の到来は誰の目にも見えたはず。対策もとれたはず。しかし、高齢化社会がいかなる社会となり、いかなる政治や経済を持つことになるかを初めて論じた

のはドラッカーでした。

そして「未来を築くためにまず初めになすべきは、明日何をなすべきかを定めることではなく、明日を創るために今日何をなすべきかを定めることである」と「創造する経営者」という書籍の中で言っています。

何を創造するのかということについて、最終的な目的としては「人の幸福」ということになります。

大きな目的やミッションにこだわり、絶えざる実験と学習を通して見つけるような仕事は決して楽ではありません。だから前向きな精神的エネルギーが必要です。しかし、この仕事は、それに見合う、やりがいと成長とつながりと共感をともなうものであります。これが実は「幸せ」の正体なのです。

私たちに当てはめると、人形劇にやりがいと成長があり、全国の幼稚園、保育園とのつながりと共感をともなっているということになります。

紀元前4世紀のギリシャにおいて、アリストテレスは幸福論を論じていますが、幸福こそが「最高善」であり、それ自身が「完結した目的」であると、まさに幸せこそが、我々の目指す究極の目的であると、昔から考えられてきました。しかし、古典や宗教の教えを見ても、「自分の幸せを追求せよ」という教えは不思議なほど聞きません。むしろ幸福論においても、宗教においても、強調されるのは「周囲を幸せにすること」です。

例えば、キリスト教の中心的な教えでは「汝の隣人を愛せ」と言っています。仏教では「慈悲」といい、儒教では「仁」と言っている

ます。それぞれニュアンスは異なりますが、いずれも、「自分がどうやったら幸せになるか」ではなく、「自分から周囲へ」の幸せを働きかけています。日本のことわざにも同じように「情けは人の為ならず」という言葉があります。これらが示すものは、「あなたの幸せは、自分一人で生み出せない」、むしろ、「あなたの幸せは、自分が関わる周囲の人たちから与えられるものだ」ということです。

ある意味で、「金は天下のまわりもの」ではなく、「幸せは天下のまわりもの」ということだと思えます。

幸せは、個人が自分だけで生み出すことはできない。経済活動と同じように集団の中で、人と人との関わりの中で生まれる現象であるということです。

幸せは、あなたが関わりあう周囲の人たちに与えることができるものであり、同時にあなたは、その人たちから幸せをもらう。まさに、「幸せは天下のまわりもの」ということです。

このことから、人形劇を通じて、私たちが成長し、幼稚園、保育園とのつながりと共感の中で、貢献できる「幸せ」としての価値を再創造していきたいと思えます。



巡回公演だより

おむすび
ころりん
班



私自身、作品制作に関わるのは初めてで、大変なことばかりだったが、そこから学んだ事は計り知れないので、有意義だったと言える。

今回はボードビルを手がけるにあたって、最初テーマを決め、班員の榎本が構成を考えて私がそれに肉付けをした。小道具にも気を使って、実物を確認して購入し、美術は班員共同で助け合いながら仕上げた。小道具で使っている花も手作りしているの、既製品の造花とはまた違う味を出している。

今回の音楽は日本のわらべうたや、童謡などを使っている。沢山の曲を聴いて、今回のテーマに合う曲を選別し、順番を決め、繋げた。言ってしまうとそこまで大変な作業には聞こえないが、一番時間がかかっている。何度もやり直しをして、曲を変えたりしていた。試行錯誤を繰り返して、良い感じに仕上げられたと思う。

この作品は、上演数は多く無いが、精一杯頑張ったので、さまざまな箇所眼を向けながら楽しんで欲しい。

たのきゅうの
うわばみだいじ
班

私が「たのきゅうのうわばみだいじ」に出演して、2年目となりました。

昨年度はコロナ禍の影響で上演



が少なく、また上演しても、子ども達はマスクをし、口をとして、大人しく観劇をしていることが多かったです。

今年度は新型コロナウイルスが5類に引き下げられ、観劇する子ども達にも少しずつ変化が出てきています。

人形と一緒に数を数えたり、舞台に向かって声をかけたり笑ったり。表情豊かな子ども達の姿が昨年度より多く見られるようになりました。

自粛期間、イベントなどを我慢してきた子ども達。やっと今、彼らが子どもらしくいきいきと過ごせる日常を取り戻してきていることに、ほっとすると同時に心から嬉しく思います。今しかない子ども時代、たくさんを経験して欲しいです。そして、私達のお届けする作品が、そんな子ども時代の楽しい思い出の一つになれた

園からの声

おむすびころりん

■小金こども園(石川県金沢市)

劇の他に手あそびがあったり、最後にお見送りでのコミュニケーションがあったりと、とても興味を持って楽しんでいました。劇を観た後には、ままごとコーナーでおいぎりを作って「山に行ってきた」と真似して遊んでいました。

■和光幼稚園(石川県輪島市)

当初心配していた未満児(1・2歳児)が、1時間ほどの観劇を飽きる事なく楽しそうに集中して見ていたので、良かったと思います。

す。子どもたちのハート♡をしっかり掴みこんでの進行はさすがプロ!! だと思いました。勉強になりました。ありがとうございました。

■まつば保育園(新潟県新潟市)

暑い中お疲れ様でした。子ども達もとても喜んで観させて頂きました。カメの声色もとても良かったですし、おむすびの歌も好評でした。劇団の皆さんの対応もとても良く、子ども達にも丁寧に接して頂けてありがとうございました。

たのきゅうのうわばみだいじ

■かもめ幼稚園(北海道留萌市)

最初、子ども達には難しい内容のかな、と感じましたが、子ども達の様子を見てみると、全く気になることなく、楽しく見せていただきました。子ども達からの自然な流れでの手拍子、声援...それだけ、子ども達の心の中に入っていたんだなと思いました。いたたたぬりえも、とても喜んでいました。数日経ってから、ブロックで「うわばみ」を作って、遊んでいる子もいました。毎年、とても楽しく見せていただいています。ありがとうございます。

■認定吉前こども園(北海道吉前郡吉

前町)

コロナ禍のため、3年ぶりの公演となり、観劇することが初めての子ども達でしたが、内容もわかりやすく、大蛇(うわばみ)の登場やスムーズな場面転換に一喜一憂しながら、とても楽しんでいる子ども達の姿がありました。

金のお銀のおの

■殿の浦愛児園(佐賀県唐津市)

毎回、舞台装置や演技は圧巻で子どもも大人も集中して観劇しています。個人的には「みにくいあひるのこ」の最後のシーンで白鳥が雄大に空を舞う表現が感動しました。おかあさんあひると白鳥の感情が汲み取れるようで胸があつくまりました。

■信愛こども園(鹿児島県鹿屋市)

毎年、子どもたちもすぎのこさんの人形劇を見ることを楽しみにしています。子どもたちもお話の世界に引き込まれ、表情豊かに鑑賞していました。また、今回のお話は子どもたちにもなじみがあり、鑑賞を終えてからも余韻にひたしながらお友だち同士でも話が盛り上がりつつあったようです。ありがとうございました。

■ローザ認定こども園(長崎県長崎市)

人形の声や動きを見ていくうちに、表情まで見えてくるようで、とても引き込まれました。舞台も工夫されていて、楽しかったです。子ども達が集中して見入っている様子を嬉しく見守りました。



認定こども園ききょう幼稚園(北海道函館市)からのプレゼント



らと願っています。
たのきゅうのうわばみたいじ班
は、現在、九州で巡回公演中です。
まだまだ暑い九州ですが、暑くても元氣いっぱいの子ども達。私達、俳優メンバーも汗をかきながら、元氣いっぱい頑張ります。

(霍 猛)

金のおの 銀のおの

班

僕は斧を使った経験が全くない。薪割りだって最初は上手くできず、修練が必要と聞く。斧は相当重い筈。木を切る時に受ける衝撃も相当なものだろう。思わず手を離しちゃうかも？力仕事に間違いないが、力だけでもない。斧の重量を利用してスッと振ると、きれいに切り込むのかな？想像を広げながら、人形で素振りする。

が、単なる怠け者にはたくない。これだけの重労働の日々なら、怠けたい日もある。もしかすると木こりとしては優秀で、一回稼いで休むを繰り返しているかもしれない。
一度怠けてしまえば、腰が重くなるのも人間だ。それでも斧を振るリズムが息づいた木こりであれば、ふとした切っ掛けでまた働く身体を取り戻す。そんな日常の一部を、この物語は切り取っているのだ。

(野見山 大輔)

別班

「腹が減った、べこべこだあ」

オオカミの歌ではじまる、「さんびきのこぶた」のお話。子どもたちもよく知っているお話です。それぞれお家をつくることにしたこぶたたちは、オオカミに食べられないように自分たちのお家に隠れます。そこで、オオカミが子どもたちに「みんな、こぶたはどこに隠れた？」と質問すると、「後ろにいるよ！」「隠れてるよ！」と

僕は嘘をつく方の木こり、ヤードの役だ。怠け者との設定もある前にこなしていた。

素直に教えてくれる優しい子どもたち。もちろん、中には「いないよ！」「知らないー！」「ちゃんと秘密にしてくれる子もいます。様々な反応が、役者の私



子どもたちは見ている時に、色々な発信をしてくれます。それこそが舞台を完成させる最高のスパイスになるのです。私たちは映画や動画とは違い、子どもたちの目の前で生声で芝居をします。そして客席の空気を感じながら、毎回少しずつ違う舞

台ができあがります。舞台は生きもの。子どもたちがそれぞれ感じたことを口にしながら、役者の私たちと舞台に参加してくれる、そうやって一緒に一つの舞台を創り上げていく。それが生の舞台の魅力なのだと思っています。

(吉田 薫)

いいだ人形劇フェスタ報告

毎年長野県飯田市で行われる「いいだ人形劇フェスタ」。

今年度は8月3日に「おむすびころりん」、8月6日に「そっくりのくりのき」で参加させていただきました。

コロナ禍もあり久しぶりの参加となりましたが、以前参加していたときよりも暑い日になりました。それは気温もありますが、参加していた各劇団様、そして運



営しているスタッフやボランティアの方々の思いなどもあり、それが「暑さ」の中にも「熱さ」を感じた要因になったと思います。

そして今年は舞台以外にも「おむすびころりん」は地元テレビ局のワイドショーへの出演、「そっくりのくりのき」は人形を持ったまま町中を練り歩くパレードへの出演などで、人形劇フェスタの宣伝やアピールへの一端に携わることが出来て、自分たちにとっても非常に実りある、有意義な時間を過ごせたかと思っています。

来年度以降はまだどうなるかは分かりませんが、これからもすぐのこで参加し、いいだ人形劇フェスタというイベントを大いに盛り上げられたらと思います。

(太田 令)

「いいだ人形劇フェスタ」
「そっくりのくりのき」を
上演して

長野県飯田市。国内最大級、日本の人形劇の祭典である「いいだ

人形劇フェスタ」が今夏、4年ぶりに通常開催となった。

やなせたかしさんの「そっくりのくりのき」——この作品は、私が初めて観たすぎのこ人形劇であると同時に、すぎのこの中で最も好きな作品だ。「いいだ人形劇フェスタ」で「そっくりのくりのき」をやりたい！その思いから参加が決まった。

4年ぶりの通常開催で幼稚園・保育園の年齢の子どもたちにとっては、生まれて初めて色々な人形劇を観れたり、ふれ合える機会になっただろう。観る人の、初めてのワクワクに100パーセントで応えるのが私たちの使命なのだと、今回の参加が、そして大好きな作品が、教えてくれた。

今回、約120名という多くの方々に観に来ていただけたが、無料公演だからその集客だ。来年は、有料公演として「そっくりのくりのき」で参加するつもりだ。有料公演のクオリティとして満足していただけるものを届ける！くりのきのおじいさんもコンちゃん

も今から気合十分だ。
自分たちの上演以外には、他の劇団の人形劇を観たり、パレードに参加した。

私が制作に関わり、普段の巡回公演で行っている「みにくいあひるのこ」を有料公演で参加している劇団があった。飽きさせないテンポ、セリフのコミカルさ。切り絵を取り入れることによって内容が要約され、話がうまくまとめられていた。満足度が高く、観て良かったと思った。自分が客側として感じたことを上演に生かしたい。各劇団が人形を持って街中を歩くパレードでは、道行く人々に手を振ったり、目が合えば人形でコミュニケーションを図ったりと、コロナ前のように人形を通じて触れ合えたことで、たくさんの笑顔を見ることが出来た。夜には盛大な花火が飯田市の夜空を彩った。色々な人形劇団を知ることができ、この機会に、行ったことがない方は来年、訪れてみてはいかがでしょう。

(長谷川 唯)



日・中・韓の意見交換会

皆様すっかりのご無沙汰お許し下さい……！すぎのこ代表を大場隆志理事長にお願いして早六年になりました。交代するやいなや、世界を揺るがす大異変「新型コロナウイルス」の勃発に世界中が萎縮してしまいました。ましてや「どの子にもナマの舞台の感動を……」を旗印に、対面活動を展開してきた「すぎのこ」にとって正に死活問題でもありました。その難局を劇団員とともに乗り越えてこられた大場理事長はじめ劇団員の皆様に心から敬意を表します。

このたび、コロナ震源地中国から、大親友焦達氏（人形・舞台美術家）が来日する事になり、共通の大親友、韓国の趙容奭氏（韓国現代人形劇会代表）にも声をかけたところ来日可能との快諾を頂きました。そこで「新型コロナウイルス禍の人形劇事情」と題して、日・中・



韓の意見交換会を開いては……と、大場理事長に提案したところ快諾を得て実施しました。（実施内容詳細はすぎのこホームページ<http://www.suginoko.org/>）
皆様の健康とご多幸を心から祈念致しております！
（顧問／小澤 幸雄）

制作だより

今年の夏はとても暑く、稽古する俳優たちはとても大変そうでした。そんな暑さも段々と落ち着き、さわやかな風が吹く、秋がやってきました。今年もあと残り3ヵ月となり、1年を振り返る事も多く

なりますが、今年はどう一つ思い返すきっかけがあります。
すぎのこは8月1日に創立記念日を迎え、ついに60年目に突入いたしました。私がすぎのこに初めて関わってからも10年ぐらいが経ちます。今は営業としてすぎのこの仕事をさせていただいておりますが、最初は俳優として入団いたしました。19歳で右も左もわからない世間知らずだった私も、すぎ

のこで様々な経験をし、学ばせていただきました。長いようであつという間で、入団初日の事は今でも覚えています。体力が全く無く声も小さかった私は、「なんで劇団なんて入ってしまったんだ……」と初日から泣いて後悔してました。でもそんな私も今こうやって

講習会報告 演育ワークショップ

今年度2回目・3回目の演育ワークショップを、5月17日・7月5日、埼玉県飯能市にあるさゆり幼稚園において実施いたしました。5月の内容は、「ストップモーション」音楽に乗って踊り、楽しみ・ストップモーションで一体感を感じ取るものです。年長組は、

昨年経験しているの、スムーズに進行しましたが、年中組は、初めは、戸惑っていました。最後は、元気に身体を動かしていました。

7月には、先生方からも希望が多かった「大きな声でハッキリ話す」をテーマに行いました。

子どもたちが、一人ずつ、離れた人形（子豚）に、自分の名前などを話し、子豚とコミュニケーションをとりながら、大きな声で話すことが出来ました。

仕事を続けているので、やはりあつという間ですね。（今でも泣いたりしています）
最近ではコロナだったり、大変な事もたくさんありましたが、来年60周年を迎えるすぎのこがどうなっていくのか、とても楽しみです。

（菅谷 香純）

すぎのこ演育ハンドブック第2版には、「おうたで演育」「おあそび演育」「おはなし演育」を中心に沢山の内容があります。詳しくは、お問い合わせください。

「演育」とは、

①知識の教育・感性と心を育む教育・健やかな体を育てる教育を統合し、演劇的方法の活用によるメソッドを演育と表現する。

②見る、聞く、感じる、考える、話す、伝えるという人としての

基礎能力（状況や人を理解し、どうするかを考え、自分を伝える能力）を育むメソッドである。

③多様な価値観がぶつかり合う時代に、人と異なる視点を持つことの大切さと、相手を理解することの大切さを育む。

（下村 明）

事務局だより



婦恋研修センター利用報告

「すぎのこ婦恋研修センター」は今夏もたくさんの方にご利用い

ただきました。日本のお客様だけでなく、海外からのお客様にもたくさんいらしていただき、パーベキュー等をお楽しみいただきました。

今年の秋もリーダーの団体様からご予約をいただいております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

婦恋研修センターのご案内

当財団には、群馬県に日本小型自動車振興会（現公益財団法人JKA）の補助により建設された「すぎのこ山荘」と日本宝くじ協会の助成により整備された「わんぱく村」からなる「すぎのこ婦恋研修センター」があります。

この施設は緑豊かな自然に恵まれ、大変静かな環境に立地し、音楽や芸術等の芸術文化活動や公益活動にお貸ししています。合宿や研修等で会場をお探しの方は、ぜひご検討ください。（利用目的は原則自由ですが、冠婚葬祭やそれに類する事、営利目的の活動には使用できません）



婦恋研修センター



近くには、海拔1240m、周囲2kmに及ぶバラキ湖をはじめ、近隣に日帰り温泉「湖畔の湯」やバラキ高原婦恋スキー場等が点在し、年間を通じてレジャーや野外活動の拠点としてご利用いただける他、敷地内にはパーベキューが楽しめる集会棟が整備され、日本キャンプ協会の優良キャンプ場として認定されています。

婦恋研修センターに関するお問い合わせ

E-mail: support@suginoko.org

または03-3984-2396

（事務局）

活動記録（令和5年7月～9月）

7/5	演育ワークショップを実施 於・さゆり幼稚園（埼玉県飯能市）
8/3	いいた人形劇フェスタ参加 「おむすびころりん」 於・長野県飯田文化会館
8/4	第一期全国巡回公演終了 いいた人形劇フェスタ参加 「そっくりのくりのき」 於・長野県上郷公民館
8/6	日・中・韓意見交換会 於・メゾン・セルバンテス（東京都千代田区）
8/23	第二期全国巡回公演開始